

小規模多機能型居宅介護 サービス評価

【令和2年度】

◆自己評価

事業所自己評価・・・・・・・・・・・・・・・・（事-①～⑨）

◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

多機能ハウス 結い

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月13日(水) (16:30~17:30)

1. 初期支援(はじめのかかわり)

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	5人	1人	人	6人

前回の改善計画
○職員と家族とのなじみの関係ができたので、信頼関係が構築できるように職員個々で勤めていく。 ○全体のミーティングが出来ない場合は、リーダー職員が中心となり、引継ぎの徹底(マニュアルの徹底) ○支援方法見直しやコミュニケーション能力向上に努める。
前回の改善計画に対する取組み結果
○ コロナ禍において、家族と直接会話する機会が少なくなるなど、信頼関係の構築に戸惑いがあったが、電話連絡を多くする事で、情報共有を図った。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	1	4	1		6
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	3	1		6
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	3	3			6
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	3	3			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○新規のご利用者に対して、利用開始当初は訪問機会を多くし信頼関係を構築できた。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○職員間での情報共有はできるようになったと思うが、業務に追われ、職員間でのミーティングが確実に実施できていない。 ○情報を共有しなければならない事項が抜けてしまうことがあった。そのため、職員全員が統一した支援には不十分なのではないか。 ○家族からの情報などで必要な支援と気付いているが、自分から発信できず指示待ちの部分があった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
① 当日のリーダー職員が中心となり、毎日ミーティング(終礼)を実施する。 ② 職員間の情報共有方法見直しやコミュニケーション能力向上に努める。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月13日(水) (16:30~17:30)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	2人	4人	人	6人

前回の改善計画	○本人の目標(ゴール)を見つけることができる。(本人からの確かなニーズを把握し、目標を設定し実践できる) ○今できていることを、継続してできるようにサポートする。
前回の改善計画に対する取組み結果	○コロナ禍において、新しい生活様式に慣れることが大きな課題になり、新生活に慣れるための1年であった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?		4	2		6
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	2	3		6
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	4	1		6
④	実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		3	3		6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること ○コロナ禍ではあったが利用者の意向に耳を傾けその目標に向けて支援を行った。 ○訪問サービスが多くなり、自宅での生活サポートがより強くなった。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること ○認知症のある方など自己決定ができない場合、職員が目標を決めている事が多く、ご家族とのニーズが一致しない場合に、支援方法に迷う事があった。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) ① 本人からの確かなニーズを把握するとともに、支援について家族の理解を得ながら目標を設定し実践できる。 ② 自立支援を主に、今できていることをサポートする。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月13日(水) (16:30~17:30)

3. 日常生活の支援

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	3人	3人	人	6人

前回の改善計画	○ご本人とコミュニケーションを通じて、送迎なし家族と会った際に話の中で、以前の暮らしなどを聞き取るよう努め、情報を整理する。
前回の改善計画に対する取組み結果	○24時間シートは未作成になっている。 ○コロナ禍において、家族とのコミュニケーションが取りにくいと感じる時もあったが、この環境下では比較的コミュニケーションは取れていたと思う。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		1	5		6
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?		6			6
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		1	5		6
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	3	3			6
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	4			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○個別ケアを徹底しており、ご利用者のできることを大切にし「自立支援」を目指したケアが出来ている ○信頼関係を築く上で、日常の会話で生活歴や意向などを自然に聞き出すことができるようになった。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○以前の暮らし方については、わからない点や把握できていない点も多い。 ○送迎に行かない場合が多いので、自宅の生活環境が分からない部分が多い。 ○環境により、本人の思いを話していないように思える利用者の真の声が聞けていないと感じる。 ○24時間シートの作成が出来ていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
① 自宅での生活を継続するために、本人の思いや家族の気持ちを職員が理解しサポートする。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月13日(水) (16:30~17:30)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	3人	2人	1人	人	6人

前回の改善計画	○サービス提供以外にご利用者が自宅でどのように過ごしているのか把握し、引き続きご家族とご本人との聞き取りや情報収集を行う。 ○暮らしの中での地域の資源の活用に取り組んでいく。
前回の改善計画に対する取組み結果	○訪問を重視したサービス提供にて、自宅での生活状況が把握できた。しかし、コロナ禍において、地域資源の活用に至らなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	5			6
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	3	2		6
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1	2	3		6
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	3	2		6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること ○訪問サービスにて、利用者の近隣住民との関わりなどが把握できた。 ○本人以外からも情報が入るようになった。(訪問時に訪れた近隣の方から)
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること ○コロナ禍により地域との関わりが少ない状況で、本人と地域との関わりや取組みは不十分である。 ○暮らしに必要な地域資源の活用とまで至っていない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) ① サービス提供以外にご利用者が自宅でどのように過ごしているのか把握し、引き続きご家族とご本人との聞き取りや情報収集を行う。 ② 暮らしの中での地域資源の活用及び社会参加に取り組んでいく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月13日(水) (16:30~17:30)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	6人	人	6人

前回の改善計画
○ 地域資源の活用、協力いただける態勢を構築し事業所より発信していく。

前回の改善計画に対する取組み結果
○ 災害時の協力体制を整えたが、コロナ禍において、実際に活動を行うことができなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?			6		6
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	2	3	1		6
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	1	3	2		6
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	3	3			6

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○ 本人の状態、家族のニーズに合わせて臨機応変に対応に「訪問」「通い」「宿泊」を提供できている。
○ 夏場の脱水予防の給水、冬期間の暖房設備への給油など、気候に合わせた訪問サービスの追加などで生活を支えた。
○ コロナ禍ではあるが、事業所が主体となり「てんとうムシ教室」を開催した。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○ 地域資源を活用した支援ができていない。
○ 利用者の状況把握において、気づきの視点が職員間で一致していないと感じる。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
○ 災害時の協力体制を活動に移していく。
○ 「てんとうムシ教室」の定期開催にて、利用者以外でも活用できる施設作りを行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月16日(水) (16:30~17:30)

6. 連携・協働

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	人	人	6人	6人

前回の改善計画	○ 地域住民(高齢者、子ども)が事業所を訪れやすい環境を整備し、具体的な事業計画にて、来年度こそは、実施に向けて取り組みを行う。
前回の改善計画に対する取組み結果	○ コロナ禍にて、改善計画が実施できなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?			6		6
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?				6	6
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?				6	6
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?			6		6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○ 回数は少なかったが「てんとうムシ教室」を開催し、地域の方より参加してもらった。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○ 地域との連携も必要最低限となり、関りが少なかった。	
○ 運営推進会議も会議体と文書報告となった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
① 地域住民(高齢者、子ども)が事業所を訪れやすい環境を整備し、地域住民が出入りしやすい施設作りに努める。具体的には、土日の施設開放など	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月16日(水) (16:30~17:30)

7. 運営

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	2人	4人	人	6人

前回の改善計画
<input type="checkbox"/> 満足度調査の実施を行い、ご利用者、ご家族の意向を把握する。 <input type="checkbox"/> 事業所の今後の展開を事業計画とし、職員に周知し事業所のあり方を常に考えられることができる
前回の改善計画に対する取組み結果
<input type="checkbox"/> コロナ禍において、活動も制限された事で、事業所内での取組みが多かった。 <input type="checkbox"/> 活動が制限されたことにより、満足度調査の実施も控えた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?		5	1		6
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?		6			6
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?		1	5		6
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?				6	6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<input type="checkbox"/> コロナ禍ではあるが、できる範囲での行事の実施ができた。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<input type="checkbox"/> コロナ禍にて、外出や行事が全くできなかった事で、普段の生活とは違ったサービス提供ができなかった。 <input type="checkbox"/> 満足度調査を実施できなかった。 <input type="checkbox"/> コロナにより活動が制限され、職員もストレスが溜まったので、利用者も溜まっていると思う。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
① 満足度調査の実施を行い、ご利用者、ご家族の意向を把握する。 ② 事業所の今後の事業所の在り方を職員間で考えることができる。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月16日(水) (16:30~17:30)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	4人	人	人	6人

前回の改善計画

- 内外の研修に積極的に参加するとともに、伝達研修を継続実施し、職員のスキルアップや資質の向上に向けた取り組みを強化し、事業所で全体のスキルアップを目指す。
- ヒヤリハット活用

前回の改善計画に対する取組み結果

- 外部の研修がほとんど中止になり、研修機会がなかった。
- 危険予知について、職員の研修が不十分な部分がある。特に、訪問サービスが多くなったことにより、訪問先でのヒヤリハットが多くなった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか			1	5	6
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか				6	6
③	地域連絡会に参加していますか				6	6
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか		4	2		6

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

- 日々の業務の中でリスクマネジメントについて発信し、事故防止に努めている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

- ヒヤリハットの活用が不十分。簡単な書式にはしているが、ヒヤリハットの解釈が職員で違うため、気づきが遅れている。
- 予測されるリスクに対して、一部の職員はできていても、一部の職員はできていないことが多いので、予防的な対応が不十分だと思われる。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

- ① 内外の研修に積極的に参加するとともに、伝達研修を継続実施し、職員のスキルアップや資質の向上に向けた取り組みを強化し、事業所で全体のスキルアップを目指す。
- ② ヒヤリハットの解釈を職員間で統一し、活用することで事故や苦情を未然に防ぐ。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年1月16日(水) (16:30~17:30)

9. 人権・プライバシー

メンバー 加藤(敏) 加藤(浩) 遠田 齋藤 根津 菊地

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	1人	人	人	6人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none">○ 常に人権・プライバシーに配慮した支援を続ける。○ ケアの前にきちんとした説明と同意を徹底し、少しでも心地の良いケアを目指す。○ 日頃から虐待や身体拘束に関する意識や知識を高めていく取り組みを継続し、常に不適切ケアを行っていないか、日頃から振り返る。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none">○ 自立支援が介護保険の基本となっているが、必要としているケアを不必要なケアと判断した場合に虐待と思われる事があるので、しっかりとした自立支援の解釈が必要。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	6				6
②	虐待は行われていない	6				6
③	プライバシーが守られている	6				6
④	必要な方に成年後見制度を活用している					—
⑤	適正な個人情報の管理ができている	6				6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none">○ 身体拘束や虐待行為は行っていない。○ 羞恥心に配慮したケアを心がけている。○ 個人情報の取り扱いについては、細心の注意と管理をするように喚起し徹底している。○ 訪問サービスが多くなったことにより、出先での個人情報の取り扱いが多くなり、書類の持ち出しについて検討した。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none">○ 利用者に対して「できるからやって」「できそうなのでお願いします」同じ行為を促すにしても声かけ一つで不適切なケアにつながるため、人権の尊重を理解した職員でありたい。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none">○ 常に人権・プライバシーに配慮した支援を行う。○ 利用者の状態を職員間で統一して把握し、個々にあった自立支援を行う。○ 日頃から虐待や身体拘束に関する意識や知識を高めていく取り組みを継続し、常に不適切ケアを行っていないか、日頃から振り返る。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	庄内みどり 農業協同組合	代表者	代表理事組合長 田村 久義	法人・ 事業所 の特徴	協同組合の基本である「相互扶助」を基に、地域農業の発展と地域住民の生活、福祉事業の展開で豊かで安心して暮らせる地域社会の実現に努めている。事業所の運営方針としては、「安心」「生きがい」「わが家」をコンセプトとし、24時間365日の安心・安全な生活のサポートと、地域コミュニティを大切に、木造を基調とした建物とサービスで家庭的雰囲気を醸し出している。
事業所名	多機能ハウス 結い	管理者	加藤 敏		

出席者	町職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	人	1人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・改善内容を意識するようにし、月1回の内部会議で確認し、計画的に全員で取り組む。	情報の確認不足がヒヤリハット、事故に繋がる事を意識する。		会議以外でも職員全員が情報共有できるシステムを作成する。
B. 事業所のしつらえ・環境	・引き続き家庭的で居心地の良い事業所になるように努めていく。	環境を整備し、利用者が居心地良く過ごせる場所に努めた。		感染症予防を図りながら、運営を継続できる環境を整える。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の皆さまへの周知方法を再度検討し、ひとつひとつ実施し、地域とのつながりができる取り組みを行う。	地域行事が中止になった中でも、何か活動ができたのではないかな。	地域住民が訪れやすい環境を整備。 地域資源を活用し、コロナ禍ではあるが、地域行事へも参加していけるように。	地域住民を対象とした健康体操を実施し、事業所の周知と健康増進を図る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・地域の方と協力をし、地域イベントへの参加を少しずつ広めていく。	地域で利用者がどのように生活しているのかを少しずつ情報共有できるようになった。		自宅でどのように過ごしているのか把握し、家族や近隣住民との交流を交え、情報共有を図る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議を活かして、改善や事業所の取組みをすすめていく。	会議体での開催が半数にとどまり、会議を活かした取組みができなかった。		コロナ禍ではあるが、会議体での開催を行う事で、運営の改善を図っていく。

<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・令和2年度は避難訓練に委員の方に参加して頂くように実施に向けた取り組みを行う。</p>	<p>コロナ禍もあり、地域の方との避難訓練はできなかった。</p>	<p>コロナ禍ではあるが、地域住民を交えた避難訓練を、検討ではなく、行動に移していく。</p>	<p>今年度は、避難訓練に地域住民から参加いただき、有事の際の連携を確認する。 また、非常災害時の避難先として設備を整える。</p>
-----------------------	---	-----------------------------------	---	--

